

2012.10.25

平成24年度学術情報リテラシー教育担当者研修

大学生を教えるノウハウ

鹿児島大学 教育センター 高等教育研究開発部 伊藤奈賀子

このセッションの目的

- 「目標達成に至る過程」としての教育活動を理解する
- 教育活動がどのようにつくられているのかを理解する
- 学術情報リテラシー教育の場で有効な教え方を明らかにする

教えるということ...5W1Hから考える

- 何故教えるか
→Why
- 誰が教えるか
→Who
- いつ教えるか
→When
- 何を教えるか
→What
- どこで教えるか
→Where
- どのように教えるか
→How

課題1：何故教えるか

- 何故独立したテーマとして教える必要がある？
 - 既存の科目の中では教えられないのか
 - 独立した科目が必要か
 - 「授業」でなければならないのか

誰が教えるか

- 学術情報リテラシー教育担当者が教えるべきこととは何か
 - 初年次教育科目担当教員との違い
 - 専門教育・ゼミ担当教員との違い
 - 情報センター職員との違い

いつ教えるか

- 学生の年次による違い
 - 必要としているのはどんな知識か
 - どの程度の予備知識を持っているのか
 - 大学図書館を利用したことはあるか
- 時期による違い
 - 学期開始当初
 - 試験直前
 - 卒業研究前

いつ教えるか

- 知識の有無
 - 法律
 - 道徳
- 危険性の認識
 - 情報の流出
 - 周囲の視線
- 大学教育の意味
 - 大学生として身につけるべきこと
 - 学習の目的

いつ教えるか..学習者がよく学ぶとき

- 学習の目標や目的が明確なとき
- 主体的な学習が増えるとき
- 学習活動がマンネリではないとき
- 学習者間で相互に学ぶとき
- 合格するまでテストを受け続けるとき
- 学習時間が増えるとき
- コメントがすぐに返ってくるとき

何を教えるか...大人の学びの特徴

- 自律的である
 - 受け身ではなく、学びの計画や実施に直接かかわる
- 経験がある
 - 経験が学習の基盤を提供する。ただし、経験則に価値を置きすぎると問題が生じることもある。
- 動機が必要
 - 自分の職業や暮らしに関わって重要と思われるようなテーマの学習に関心を示す
- 課題中心型
 - 学習内容中心ではない

何を教えるのか

- 教える目的は何か
- 達成目標は何か
- 教える内容に優先順位を付ける

達成目標

評価方法

授業計画

どこで教えるか..環境を活かす

- 教室
- 図書館
- ラーニングコモンズ
- コミュニケーションスペース



- 使えるものと使えないものの区別

どのように教えるか

【教授法と学生の成果との相関】

- 教員の準備、コースの設計
- 説明の明確さと理解しやすさ
- 授業目標に沿った授業
- 授業で期待される学習成果の理解
- 教員による知的刺激
- 学生への高い水準への動機づけ
- 質問の促進と他の意見への寛大さ

(Feldman 1997)

授業を組み立てる

- 達成目標を明確に設定する
- 目標は、達成できたかどうかを評価可能なものにする
- 授業づくりの基本としての「導入」「展開」「まとめ」
- 区切ることで、それぞれの学習の段階を整理できる。そのことで、教員にも学生にも、その時々々の学習の意味が明確になる

課題2：日本語教育から学ぶ

- グループで、以下の授業（1回分）の計画案を作成してください。
 - 対象：日本語を学び始めたばかりの外国人
 - 目標：「これ」「それ」「あれ」の違いを理解し、「それは何ですか？」「これは〇〇です」の対話ができるようになる
 - 授業時間：50分
 - 書き方：導入、展開、まとめの3部で構成する
 - 注意事項：
 - 学生は動詞、形容詞を全く知らない
 - 未習語彙を導入しても良い

どんなことに気が付きましたか？

- 使えることばが少ない
- ことばを使わず説明する難しさ
- わかっているつもりでわかっていないこともある
- 「わかる」ことと「できる」こととの違い
- 相手の状況を把握し、それに合わせることの難しさ
- 楽しみながら学べるようにすることの困難さ

授業の構成：①導入

- 快適な雰囲気始める（あいさつ、教室の温度、マイクなどの確認）
- 興味・関心を喚起する
- 学習目標を共有する
- 学生の予備知識・準備状況を確認する

授業の構成②：展開

- 内容を精選する
- 内容を順序良く配列する
- ハイライトを演出する
- 学習方法を工夫する
- 学習の進み具合（理解度・定着度）を確認する

授業の構成③：まとめ

- 内容の定着を図る
- 学習の成果を確認する
- 達成感を与える
- その後の学習への動機を高める
- どのような場面に活かされるかを示す

課題3：学生の態度を育成する

- 「コピペをしてはいけない」ということをどのように伝えますか？
- コピペ対策に関する学生指導の場で有効だと思われるいくつかの達成目標とそのための具体的方法を整理してまとめてください。
 - 目標₁：コピペが何故いけないかの根拠を見出す
 - 具体的方法：①法律を調べる、②...

セッションのまとめ

- 達成すべき目標を学生との間で共有したうえで取り組むことが重要である
- 目標は評価可能な形で設定する
- 学習の目標は、学習者がその後自律的に学んでいける力を育むことにある
- 教育活動は導入→展開→まとめという段階からなる過程である

主要参考文献

- ボイヤー,E.L.,有本章訳、1996、『大学教授職の使命』玉川大学出版部
- クラントン,P.,入江直子他訳、2006、『おとなの学びを拓く』鳳書房
- Feldman,K.,1997, “Identifying Exemplary Teachers and Teaching : Evidence from Student Ratings” in Perry,P and Smart,J.(Eds.),Effective Teaching in Higher Education : Research and Practice, Agathon Press

主要参考文献

- 夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子（2010）『大学教員準備講座』玉川大学出版部
- 鈴木克明（2002）『教材設計マニュアル』北大路書房
- 山内祐平編著（2010）『学びの空間が大学を変える』ボイックス株式会社